



第8号 令和6年2月15日発行

 **社会福祉法人 和歌山つくし会**

本部 和歌山県和歌山市吉礼字八ツ井486番地の1
TEL : 073-488-7470
FAX : 073-478-1900

事務局 和歌山県岩出市中迫665
TEL : 0736-69-1772
FAX : 0736-69-5251

特集 コロナ後 再始動!

「つくし医療・福祉センター
秋のつくし祭り」



目次

1. ごあいさつ「変わらないために変わり続ける」

谷本 美佐子 社会福祉法人 和歌山つくし会 理事長

2. 開催報告「第12回大阪ショートステイ連絡協議会 公開講演会」

飯塚 忠史 地域在宅支援センター センター長

3. 特集 コロナ後 再始動！「秋のつくし祭り」

山下 敬子 つくし医療・福祉センター 育成課長

「つくし幼保園のお芋ほり」

土橋 仁美 つくし幼保園 保育教諭

「広瀬幼保園のハロウィーン」

広瀬幼保園 リーダーズ

4. つくしっ子連載

連載第2回 和歌山乳児院バンビーニ広場つくしホール 「変わらないために変わり続ける」

森下 宣明 社会福祉法人 和歌山つくし会 常務理事

連載第5回 「イタリアで見つけた共生社会のヒント」

川野 琢也 つくし医療・福祉センター リハビリテーション課 課長

5. つくしっ子ニュース！！

「第1回 谷本千鶴賞」「つくしっ子特別賞」授賞式

「令和5年度 受賞者の喜びの声」

厚生労働大臣賞表彰 内閣府特命（こども政策）担当大臣表彰 和歌山県白梅賞
全国社会福祉協議会会長表彰 第72回 全国乳児福祉協議会永年勤続表彰
和歌山県知事感謝状 和歌山県社会福祉協議会 会長表彰

「令和5年度 和歌山つくし会 永年勤続表彰」

6. つくしっ子レポート！

令和5年度 12月7日役・職員合同研修会「和歌山つくし会創業70周年を迎えて」

7. みんなであそぼう！

「つくしホールにあたらしいおともだちがやってきた！」

8. 編集後記

ご あ い さ つ



「変わらないために変わり続ける」

社会福祉法人 和歌山つくし会 理事長

谷 本 美佐子

2019年12月に理事長に就任させて頂きまして、早4年が経過しました。

翌2020年には日本にコロナが上陸し、混乱が予測される中、財務、労務、サービスの現状を把握するために過去のデータや直近の歴史の流れを知る必要がありましたが、桃山療護園の「創立20周年記録誌（1996年発刊）」と「平成26年度和歌山つくし医療・福祉センター年報（2011年）」以外に運営・経営状況がまとめられた記録はありませんでした。

2019年の50周年を迎えるにあたり記念誌を作成するところだったので、十分な資料のない中、和歌山つくし会の沿革を調べるために、まず長年勤務して頂いている職員さんたちに記憶を辿って頂いてお話を聞くことから始めました。

また、利用者さんや退職された方々からも寄稿を頂き、貴重な写真をお借りし、お陰様で約1年かけて「社会福祉法人 和歌山つくし会50周年記念誌《つくす》」を完成させることが出来ました。

理念については、初代理事長が最初に事業を起こしたときに《人に尽くす》ということを生涯目標に掲げていたことに因んで《つくす》とさせて頂きました。

「つくす」という言葉は和歌山つくし会の名前そのものであり、シンプルながらも意味が深く、優しく、無限に広がる響きであり、春の野原のつくしんぼうのように「こどもたちがすくすく育つ」ことを象徴する言葉でもあります。

詳細なことがわからない部分もまだまだありますが、皆さまから教えて頂いたお話と私自身が初代理事長から直接聞いていた話などを総合すると、この50年史の発刊により、法人の沿革と各事業所が目指して来た方向性、利用者さんとそのご家族のこと、職員さんたちの協働の努力などについて、かなりの記録が残せたのではないかと思います。

1年かけて発刊できた時は感無量でした。

記念誌の発刊後、退職された方々からもたくさんのお祝いや励ましのお言葉を頂戴し、何より感動的だったことは、皆さまが示してくださった和歌山つくし会に対する変わらぬ愛情の念でした。

そして、2021年から法人内の相互理解の為とその時々の方々の考えなどを記録に残すため、年2回の「つくしジャーナル」の発行を始めました。皆さんからより気楽にご意見を頂戴し、また思い出の写真も残していきたいと思っております。

さて、今私たちはどの地点にいるのか？と改めて和歌山つくし会の歴史について考えてみますと、2019年に社会福祉法人設立50周年を迎えたことは、まだ皆さまのご記憶にも新しいところだと思います。

しかしながら、和歌山つくし会は社会福祉法人以前は財団法人であり、それ以前の私設公益的事業の時代から数えてみますと、2024年の今年創業70年目になります。

70年前に初代理事長が「こどもたち、障がいのある方、社会的弱者の方々のためにつくしたい」と創設した事業の現在までの流れを見ても、和歌山つくし会の基本的な事業である保育所、乳児院、重症心身障害児施設、幼保園は現在に至るまで発展し、より多機能化し、和歌山つくし会の起源である「つくす」という精神が皆さまの日々の協働の業務の中で何十年もの間自然と受け継がれ、より素晴らしい進化を遂げています。

次に経営状況を知るために、ここ数年の資金収支計算書を毎日穴のあくほど眺めていますと、ある日突然に数字たちが飛び跳ねて私に語りかけて来るのが聞こえて来ました。

毎年の収益、支出の数字がまるで生きてるように各年の状況を語り出したのです。

私は記念誌で編纂した和歌山つくし会のストーリーと合わせて、数字が語らんとするところを理解しようと試みました。

社会福祉法人は一般企業とは違い、営利目的で事業を行っているではありません。

しかしながら、昔の良き時代と違って現在の社会福祉法人は一般企業と同じく競争社会の渦中にあります。

過去において医療・福祉の世界でお金の話をするのは、福祉の精神を蔑ろにすることのように思われていたかも知れませんが、社会福祉法人が現在の外部環境の著しい変化にどのように対応し、存続していくのか、私たちも良い意味で変化しないと、これまでと同じことを行っているだけでは近い将来必ず収支バランスが崩れ、大切な利用者さんや職員さんたちを守れなくなってしまふ、ということを痛切に感じました。

2021～22年はコロナによる事業縮小に伴う収益減も予測されたため、早速本部事務局で組織改革を含めた経営改善の必要性の周知、実務者会議の方法の変更、つくし未来会議やセンターの経営改善会議を始動させ、歯科の創設等、これまでになかった切り口で新しい経営、運営の在り方を模索しています。

このように皆さんが協力して頑張っていただいていることから、実質的な改善計画は程なく効果を表すことと思います。

和歌山つくし会の各施設がモットーとする「利用者さんを第一に考える」ことを今後も実行し、責務である地域への貢献を目指すためには、まず柔軟な心を持ち、新しい発想で持続可能な経営を行うことが必要です。

「社会福祉法人だから経営のことを考えなくて良いのだ」という従来の考えでは、当然のことながら経営そのものが危機に晒されることとなります。

今こそ役・職員一丸となり、福祉の精神とそれを支える経営を一致させるときであると思います。

少子化を始め、将来もっと顕著になってくる職員不足、働き方改革など、まだまだたくさんの課題がありますが、大切な福祉の精神を守るためにも、「変わらないために変わり続ける」という発想で、これからも検討を重ねて参りたいと思います。

皆さまのご理解、ご協力に感謝申し上げますと共に、今後ともよろしくお願い申し上げます。

開 催 報 告



「第12回 大阪ショートステイ連絡協議会 公開講演会」

地域在宅支援センター センター長

飯塚 忠 史

2021年度の大阪ショートステイ連絡協議会（SS協議会）の世話人会で私を2023年度の公開講演会会長に推挙いただき、このたび開催いたしましたのでご報告いたします。

1. SS協議会とは。

SS協議会は、大阪発達総合療育センターの船戸正久先生が国の援助を得て、大阪府内のNICUを持つ大病院や、入所・短期入所事業を行っている大規模施設、大阪府の行政、大学等の多職種従事者を集めて、NICUから退院した障害児の在宅生活支援体制の調査・研究、整備を始めた時に出来た協議会です。SS協議会は国の援助が終了後も活動を続け、情報共有のためのSS協議会定期会議、東京の医療法人はるたか会：前田浩利先生らの小児在宅医療推進のための会(東京部会)との合同会議、年1回の公開講演会などを続けています。

2. 公開講演会の内容

テーマは「共生社会をめざすショートステイを考える」としました。シンポジウムの演者の発表の流れは以下の通りです。

まず私が少子高齢、人口減少の進む和歌山県全体のショートステイの現状とつくし医療・福祉センターのショートステイ事業の様子を報告しました。ついで新宮市で医ケア児の育児を行っている加藤亜里沙さんの奮闘状況の報告、さらに県南部の厳しい状況を県相談支援体制整備事業アドバイザーの花村篤司さんの報告が続きました。大きな施設の新設が困難な県南部での医ケア児の支援充実や共生社会を実現する方向として、和歌山市で看護小規模多機能型居宅型介護事業所（かんたき）：幹はうすを実践している丸山美智子さんと、大阪府堺市で福祉強化型ショートステイ：輝39を実践している山下美由紀さんに現状を報告していただきました。最後に「地域共生社会と在宅障害児」と題して、北海道大学公共政策学研究センターの榎本芳人さんから、前二者の報告の福祉制度上の位置づけと、地域共生社会実現に向けた厚労省の考えの報告でまとめいただきました。

3. 会場の雰囲気

参加者には都市部の病院・入所施設等の医療従事者が多かったもので、和歌山県の過疎地で、

地域での仲間づくりや交流を大切にして医療的ケア児を育てている母親が頑張っている様子に、新鮮な驚きを感じた様でした。地域共生社会実現に向けた厚労省のキーワードが「地域づくり」「参加支援」「情熱」等であり、また報告された実践が全国的にも珍しいものであり、参加者の持つ「医ケア児支援」や「ショートステイ」の既存の考えの枠を超えて、興味を引いたと思われました。

シンポジウムの討議では質問や意見が活発に交わされ、和気あいあいとした雰囲気でした。また会場では多くの名刺交換と情報交換が行われ、たくさんの参加者から「勉強になった」との感想をいただきました。

4. アンケート結果

公開講演会は2023年12月3日（日）午後開催され、場所は大阪発達総合療育センター5階ホールでした。参加者は会場44人、オンライン76人で、合計120人、内アンケートにお答えいただいたのは52人（43%）でした。参加者の所属機関・団体は重症心身障害児者施設18名、病院10名、その他で、職種は医師19名、看護師10名、その他でした。参加者の居住地は大阪府内（市内を除く）15名、大阪市内12名、和歌山県9名、その他でした。内容に対しては、「興味深かった」が49名（94%）、まあまあ興味深かったが3名でした。

「印象に残ったことは」の質問に、

- ・〇〇ちゃんのお母様のお話は、特に心に響きました。シンポジウムがさまざまな面で分かりやすかった。
- ・実際の制度なども聞かせていただき、とても勉強になった。新宮で生活されているお母様の思い、すごく伝わった。共生社会、改めて心にきざみたいと思う。

などのご意見をいただきました。

最後になりましたが、ポスター作製、会場設営、オンライン配信、参加者の受付、等々、今回の講演会の準備をはじめからすべて引き受け、講演会を成功に導いたスタッフの皆さんに心からの感謝を申し上げます。

特集 コロナ後 再始動！



「秋のつくし祭り」

つくし医療・福祉センター 育成課長

山下敬子

2023年10月28日つくし祭りが開催されました。

コロナ禍で中止が続く中、4年ぶりにご家族や後見人を招いての行事となりました。

今年は恒例となっていた夏開催の祭りから、涼しく季候が和らいだ秋の開催に変更しました。限られた面会時間が続いていたせいかな案内状を送付したところ56家族112名のご参加をいただき盛大に開催することができました。

まずは、14時から祭りがスタートし、たこ焼き、ソフトクリーム、綿菓子、ジュースの屋台が開店、混雑を避けて各階時間差で来店いただきました。ご家族と一緒に楽しむ利用者さん、またスタッフに付き添われて楽しむ利用者さん、皆さん笑顔で参加されていました。また、今回は療育棟内の各フロアにおいて写真展示を兼ねた休憩場所を設置し、ご家族と歓談する場も設けました。

コロナ禍で制限された生活を少しでも快活に送れるようにと、各療育棟やりハビリスタッフによる様々な活動や行事の様子を写真で見させていただきました。15時から、芝生に設置された舞台上で野外ステージが開かれ、鈴木院長の挨拶から始まりました。

今回のイベントは和太鼓「雷鼓」「セゾン」「いこら」の3団体と盆踊りの演者さんをお招きし、盛大に盛り上げていただきました。そして観覧だけでなく体験コーナーで利用者自身が太鼓を経験する場も設けました。最初は不安そうな表情で太鼓に触れていましたが、上手く音が出ると満面の笑みで皆満足した様子でした。

すべての太鼓の演奏を楽しんだあと、最後は盆踊りの会の人による踊りが始まりました。

小さい輪から自然と人が集まり、みんなで踊りを楽しむ光景を見て少し昔のことを思い出しました。つくしの前身である岩出療育園時代では毎年恒例の夏祭りには、皆で踊りを楽しみました。紅白の幕に手作りのやぐらや太鼓を中央に置き、その周囲を何重にも円を描いて、利用者だけでなくご家族やスタッフも浴衣や法被姿になり踊ったことを懐かしく思い出します。盆踊りが始まるひと月ぐらい前になると「ほんおどり」「きもの」とスタッフに同じ言葉を何度も繰り返し、祭りを心待ちにしている利用者がありました。浴衣を着て軽やかなステップで河内音頭や炭坑節を踊る姿を今でもよく覚えています。

長い年月を経て今では踊ることも話をすることもできなくなりましたが、今回の踊りにスタッフに付き添われて踊りの輪に参加した際、ふっと表情が変わったことが印象的でした。きっと遠い昔のことを思い出されたのでしょう。

最後にこのつくし祭りを開催するにあたり多くの方々にご協力していただきありがとうございました。そして家族会より飲み物のご寄付もいただき厚く御礼申し上げます。来年も皆さんと一緒にお祭りを楽しみ、思い出に残るひとときとなることを願っています。



「つくし幼保園のお芋ほり」

つくし幼保園 保育教諭

土橋 仁美



11月の温かな日。2歳児は園庭の畑、3歳児は園の近くの畑で、4・5歳児は仲良く手をつないで1キロ先のお芋畑へ歩いて、お芋ほりに出かけました。

お芋畑では、「おいもさんどこにかくれているんだろう？」と、泥んこになりながら、夢中になって手で土を掘ったり、お友だちと力を合わせて「うんとこしょ」「ん～抜けない～」と一生懸命引っ張ったりしていました。

大きなお芋がでてくると「あ、でっかい！」と歓声をあげ、お芋の大きさに目を輝かせ、「みて、みてー」と見せ合って喜んでいました。

掘ってきたお芋は、家庭に持ち帰ったり、給食やおやつに入れてもらったり、後日、園庭で子どもたちが濡れ新聞紙とホイルでくるみ、YMCAの方に炭火で焼いてもらい、焼きあがった熱々のお芋を、「おいしいなァ！」と言いながら、みんなで美味しそうにほおぼっていました。



「広瀬幼保園のハロウィーン」

広瀬幼保園 リーダーズ

向日葵組	保育教諭	上野山	真生子	百合組	保育教諭	在塚	博子
堇組	保育教諭	花光	都茂子	蒲公英組	保育教諭	森田	美幸
土筆1組	保育教諭	柴田	里佳	土筆0組	保育教諭	山本	恵理子



10月31日のハロウィンに因んで、各クラスで趣向を凝らした飾りつけをしたり、置物を作成したりしました。子どもたちもそれぞれ自分が気に入ったハロウィンのコスプレで写真撮影をして気分は最高潮！

「わにわにパニック」「あきかんつみ」「おさかなつり」「おばけごっこ」などの遊びをしてハロウィンパーティーを楽しみました。

「おばけはちょっと怖いけどハロウィンは楽しい！」と園全体がハロウィンの雰囲気盛り上がりしました。



つくしっ子連載

連載 第2回 和歌山乳児院 バンビーニ広場・つくしホール
「変わらないために変わり続ける」

社会福祉法人 和歌山つくし会 常務理事

森 下 宣 明

つくしジャーナルも第8号となりました。

今回は、前号からの続きとなりますが、バンビーニ広場・つくしホールのその後について報告します。

バンビーニ広場は、昨夏の記録的な猛暑で、植えたばかりの芝生が枯れてしまうのではないかと随分心配しましたが、たくさんの方々のご協力をいただき、何とか乗り越えることが出来ました。

春には新芽がでて、緑一色となり、訪れる人々の憩いの広場になると思います。

つくしホールには、新しい遊具が入り、乳児院の子どもたちも散歩がてらに立ち寄り楽しんでいます。見学者の説明会や関係機関との会議等の利用も少しずつ増えてきています。

4月からは、里親支援センター「なでしこ」が、第2種社会福祉事業となり、職員数も倍増する予定ですので、新たな活用方法についても検討しています。

先日の法人実務者会議で、谷本理事長より、「変わらないために変わり続ける」という言葉の紹介がありました。

この言葉は、聞く人の心情により、さまざまに解釈されますが、法人理念の「つくす」について置き換えてみると、よくわかります。

「つくす」という志は変わらないけれど、そのための手段は変わり続ける、変わらないために……。

昨今の世界情勢を見るまでもなく、社会はどんどん変わり続けています。社会福祉制度も時代とともに変わり続けていますが、その本質は変わりません。

当法人が、地域の方々に必要とされ続けるためには、本体施設の充実はもとより、時代が求める新たな事業を確実に推進していくことが必要です。

多機能化を求められている和歌山乳児院や、その一環としての里親支援センター「なでしこ」が、社会的養護を必要とする子どもたちや、その保護者のみならず、地域の子育て世代が安心して利用できる「乳幼児総合支援センター」に邁進するため、バンビーニ広場・つくしホールの活用を積極的に行っていきたいと思います。



連載 第5回

「イタリアで見つけた共生社会のヒント」

つくし医療・福祉センター リハビリテーション課 課長

川野 琢也

今回は、イタリアで最後に訪問した「マジカ・ムジカ協会（Associazione Magica Musica）」について記します。直訳するとMagicaはマジック（魔法）、Musicaはミュージック（音楽）となります。様々な障害を持った約30名の団員で構成されたオーケストラ公演を主とする団体が2008年ミラノに設立されました。私たちが訪れた2019年時にはオーケストラのみならず、ダンス教室や絵画教室、歌の個人レッスンなど幅広い芸術分野の支援を行っていました。これらの支援を通じて障害のある方の自己表現をすることとアイデンティティの確立、可能性を再発見する場となっていました。さらに、心理士による支援や保護者を対象とした相談窓口の業務も行っており、障害のある方とその家族に対して地域に根ざした支援を行っている団体でした。私たちの訪問時には地元カステッレローネ市の市長、ロンバルディア州の上院議員、警察署長などの地元ゆかりの名士も集い、私たちの訪問を出迎えてくれました。

少し話は変わりますが、今回のイタリア訪問でたくさんの写真や動画を撮っていたのですが、被写体となっている方は障害当事者であったり、訪問先の学校では子どもたちであったため、プライバシーや肖像権の観点から画像の使用が難しかったり、加工するなどして紹介していました。今号で紹介するマジカ・ムジカ協会は多くのメディアに出演し、自身のホームページやYouTubeチャンネルも開設しており（QRコード①）、私たち日本からの訪問の様子もYouTubeにアップされています。今号はその動画等の紹介もさせていただきますので、ぜひご覧になって訪問時の雰囲気を味わってみたり、生の声を聞いていただければと思います。余談ですが私たちの訪問先の全行程に同行し通訳して下さった栗原大輔さんはプラタモリの海外初ロケのイタリア編でも通訳された方でした。イタリアと日本では制度の違う医療や福祉関係の専門用語も解説を交えながら通訳し、毎日12時間以上にわたって通訳しっぱなしでしたが、いつも笑顔でとても優しく私たちに接してくれました。QRコードのYouTubeにも登場するので紹介させていただきました。

さて、本題にもどります。マエストロ兼マネージャーのピエロ・ロンバルディ氏によってプロデュースされたプログラムは、日本の国歌とイタリアの国歌から始まりました（QRコード②）。日本から訪れてきた私たちを歓迎してくれているピエロ・ロンバルディ氏の姿勢を最初に体感した瞬間でもありました。彼はオーケストラの団員や御家族に対しても相手を敬い、愛情をもって接していることが様々な場面で感じられました。ピエロ・ロンバルディ氏の言葉には幾度となく「尊厳」という言葉が出てきました。一人ひとり違った個性や障害を抱えた人に対して、その方のできる事や得意なこと、また逆にできない事や苦手なことは異なって当然で、その方がオーケストラで何ができるのか、どうすれば参加することができるのかを考えるようにしていると仰っていました。オーケストラの団員は過去に音楽をしていた方というわけではなく、むしろ音楽には全く縁がなかった方がほとんどで、週に1回の練習と対話を積み重ねているとのことでした。

マジカ・ムジカ協会会長のヴィットリア・ロッシ氏は自身の娘が団員で障害当事者でもありません。団員になる前は障害を持った娘の将来を悲観したり、知らない世界に娘を参加させることに恐れを抱いたりしていたそうです。しかし、団員としてオーケストラに参加するようになってからは娘にも特別な能力があり、他人に希望や力を与えることができることが証明された。彼らにはやる気があり情熱もあり、限界を決めていたのは私たちであったと考え方が変わったと仰っていました (QRコード③)。

マジカ・ムジカ協会への滞在は4時間弱でしたが、レパートリーの中から私たちにリクエストした曲を演奏してくれたり、私たち日本の団員が指揮をしたりするなど双方向性で対話形式のオーケストラの時間を過ごしました。またたくさんのお土産をいただき、さらに交流会では夕食もいただきました。イタリアのフルインクルーシブ教育によって作られた包摂された、温もりを感じたひと時でした。最後の訪問先となったマジカ・ムジカ協会は今回のインクルージョンなイタリア社会の集大成ともいえる場所となりました。そして今回の私たちの訪問については後日、地元紙の記事でも紹介されていました (QRコード④)。

私たちが帰国してしばらく後に新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るい始めました。初期のころはイタリア全土で多くの犠牲者が出ていたこともまだ記憶にもあると思います。マジカ・ムジカ協会の団員やスタッフも未知なる感染症の恐怖の中、ステイホームで人との交流や対話を制限せざるを得ない状況が続いていたようです。そのような状況下で彼らが制作した動画 (ジョン・レノン作曲 「Free as a bird」) もYouTubeにアップされているので、ぜひご覧ください (QRコード⑤)。コロナ禍のステイホームでもメンバーの自宅を通じてつながり続ける努力や、「Free as a bird」に込められた想いも伝わってくるのではないかと思います。



QRコード①



QRコード②



QRコード③



QRコード④



QRコード⑤



つくしっ子ニュース！！

第1回 「谷本千鶴賞」 「つくしっ子特別賞」 授賞式

第1回 「谷本千鶴賞」 和歌山乳児院 看護部長 宮井 陽子

第1回 「つくしっ子特別賞」 つくし医療・福祉センター 第1、第2、第3療育棟チーム
 広瀬幼保園 リーダーズ
 つくし幼保園 保育教諭 飯田 孝美
 和歌山乳児院 保育士 山本 恵理子 谷口 智香

和歌山つくし会は2024年10月に創業70周年を迎えます。

社会福祉法人として2019年11月に創立50周年式典を行った事は、まだ皆さまのご記憶に新しいところだと思いますが、社会福祉法人以前は財団法人であり、私設公益的事業を設立した創業時代に遡りますと今年で70年を数えます。

昭和、平成、令和と山あり、谷ありと様々な時代を社会福祉一筋に歩んで来ました和歌山つくし会ですが、2024年の創業70周年を記念し、初代理事長の名を冠した「谷本千鶴賞」と「つくしっ子特別賞」が谷本千鶴基金を以て創設されました。

「谷本千鶴賞」は社会福祉法人和歌山つくし会に多大な貢献をした職員又はグループに、「つくしっ子特別賞」は施設に良く貢献した職員や、職場で良い雰囲気作りをした職員又はグループに授与されます。

2023年12月19日、第一回目の受賞者に「70年間継承されてきた和歌山つくし会の想いと培われてきた人間力を後続の職員たちに継承しつつ、これからも皆で一致団結し、頑張っていきましょう」と理事長はじめ、役員の方からお言葉がありました。



「令和5年度 受賞者 喜びの声」



厚生労働大臣表彰

つくし医療・福祉センター 保育士

大西 好子

この度、社会福祉功労者厚生労働大臣賞を頂きましたことを光栄に存じます。

センターで働く他職種の皆様のご指導、支えてくださった上司、先輩の方々、同僚の皆様のおかげであると心より感謝しております。

利用者の方々とコミュニケーションをとり、信頼関係を形成し、その人らしさを大切にした介護を実現できるよう、これからも利用者の方々に寄り添いながら他職種との連携をとり仕事に精進して参りたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



内閣府特命(こども政策)担当大臣表彰

広瀬幼保園 保育教諭

柴田 里佳

この度、このような表彰をしていただき身に余る光栄です。

1982年9月に故白貫俊学院長の面談の下、入職させていただきました。

院長室には初代谷本千鶴理事長のお写真が掲げられ、「千鶴先生も私達と一緒に子どもを沐浴させてくれたのよ」とお話をしてくださった先輩の鳴神静子先生。その時、乳児院で勤務できることを心から嬉しく思いました。

その3か月後、千鶴先生が思いも寄らずお亡くなりになるとは…。小雨の降る中で通夜に参列しましたが、お会いできなかった残念さが肌に沁みました。

その後、乳児院での約26年を経て広瀬保育所、広瀬幼保園と現在に至ります。施設で生活している子どもと家庭で育てている子ども、当初は確かに戸惑いの気持ちもありました。でも、子どもは教えてくれました。

全ての子どもは、安心安全な場所で生きていかなければならない、守られなければならないということを。

現代社会においては、ウクライナの子ども達の幸せを祈り、心より平和を願います。

この40年間皆様に支えられ、これまで勤務させていただいた感謝の気持ちを忘れず、そして、2月に他界した亡母にこの喜びを捧げたいと思います。本当にありがとうございました。



和歌山県白梅賞

つくし医療・福祉センター 育成主任

小栗 旬子

この度、白梅賞を頂き誠にありがとうございます。

昭和59年4月に乳児院に入職し、社会福祉という仕事に携わることになりました。子ども達との関わりの中での成長を目の当たりにしてきました。子ども達に関われば関わるだけ愛情が湧き家族のもとに帰る子や他の施設に行く子どもとの別れがたく、涙したことを今でも覚えています。平成12年には、桃山療護園に勤務となり子どもの保育業務から大人の方の介護業務となりました。何も解からず不安や戸惑いもある私を親切丁寧に指導して下さった先輩方、そして利用者様の笑顔が毎日の励みとなりました。その後も、岩出療育園、つくし医療福祉センターと勤務してきました。年数を重ねていく中での責任や役割を担う為にも、今後ともより一層努力をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



全国社会福祉協議会会長表彰

つくし医療・福祉センター サービス管理者

坂本 理恵

この度、栄えある賞を受賞させていただき誠に光栄に思います。

私は平成4年に入職してから、広瀬保育所・岩出療育園・つくし医療・福祉センターと様々な職場を経験させていただきました。たくさんスタッフ・保護者の方々と一緒に仕事をできたことが、私にとってかけがえのない思い出です。これまで暖かく見守っていただいた皆さまには心から感謝申し上げます。これからも初心を忘れず、自分なりに努力し精進して参ります。まだまだ至らない点が多くありますが、これからもご指導のほどよろしくお願い致します。本当にありがとうございました。



第72回 全国乳児福祉協議会永年勤続表彰

和歌山乳児院 幼児部主任

田中 孝子

この度、「第72回 全国乳児院協議会」において、永年勤続表彰にあずかり、ありがとうございます。

これもひとえに、上司、先輩、同僚の皆様のお陰であると、心より感謝申し上げます。

学生の時に実習でお世話になり、入職後は実習時とはまるで違い、それまでの私の保育園の経験や子育てとも全く異なるものでした。乳児院では、子どもたちが望んだことを望んだように関わろうと教えて頂きました。

最近子どもに「誰の担当？」と聞かれることがあり、私は、「みんなの担当、みんな大好き」と答えるのにっこり笑って「みんなすき？」と、とても愛らしい表情を見せてくれました。この笑顔が私のパワーの源です。

子どもたちが安全で安心して過ごすことができる暖かい家となるように、これからも一層努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。



第72回 全国乳児福祉協議会永年勤続表彰

和歌山乳児院 保育士

岡 淳子

この度、「第72回 全国乳児院協議会」において永年勤続者の表彰を頂き、ありがとうございました。

今から16年前、広瀬保育所から異動となり、乳児院で働く機会を頂きました。

新しい環境の中、初めての夜勤と子育てとの両立の難しさに、不安を感じる事が何度もありましたが、上司や同僚をはじめとする皆様に支えて頂き、何とかここまで続けることができました。今後も感謝の気持ちを忘れず、子ども達が安心して生活できるような毎日が続くよう、より一層努力をしていきたいと思っておりますので、変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



和歌山県知事感謝状

つくし医療・福祉センター 育成主任

達谷寛美

この度、和歌山県知事感謝状を頂きましたこと、心より光栄に存じます。この栄誉は、これまで自分を指導し育ててくださった上司やたくさんの方々と、自身を支えて頂いた同僚の皆様のお陰であると、深く感謝しております。

私は、調理師として岩出療育園に入職、利用者に安全で美味しい食事の提供に努めてまいりました。その後桃山療護園に勤務。平成20年につくし医療・福祉センターになってからは、療育棟で利用者の生活・活動等の支援を行うことになりました。当初はからわないこともたくさんありましたが、一つひとつ先輩方に教えて頂き経験しながら、利用者の皆様と共に成長させて頂きました。

今後もスタッフと協力し、安心して快適な生活環境の提供と、利用者の最善は何かを考えながら、より良い支援に繋げてまいりたいと思っております。

これからも精進して参りたいと思いますので、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



和歌山県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉法人 和歌山つくし会 常務理事

森下宣明

この度、県社協会長表彰（社会福祉施設役員・職員功労者）をいただきましたこと、身にあまり光栄と存じます。

さて、コロナ禍の3年間を経て、法人の財政基盤も盤石とは言いにくい状況となってきました。

法人本部では、理事長を中心に、各施設の経営状況の分析と5年後を見据えた中期計画の作成が進められています。地域で必要とされる法人である限り、現在実施している事業を確実にやっていくことが重要です。そのためには、財政基盤を固め、サービスの質を向上させることが求められています。

役・職員の皆様と力を合わせて、この難局を乗り切っていきたいと思っております。この度は、誠にありがとうございました。



和歌山県社会福祉協議会会長表彰

つくし幼保園 副園長

荒川 知子

この度、和歌山県社会福祉協議会会長表彰をいただくことができ、誠に光栄に思います。これも、これまで温かく見守り、ご指導、ご支援して下さった皆様のお蔭であると心より感謝申し上げます。

つくし会に入職し、保育教諭として乳児院や幼保園で子ども達や保護者の皆様と出会い、多くのことを学ばせてもらいながら、保育、教育に携わってまいりました。現在は、ますます少子化が進み、保育を取り巻く環境は大きく変化し、園としての在り方が問われています。

子ども達のキラキラした笑顔を守り、幸せを願うためにも、これからも保育の質の向上や保護者支援に向けて一層尽力してまいりたいと思います。どうか今後共変わらぬご指導をよろしくお願いいたします。



和歌山県社会福祉協議会会長表彰

広瀬幼保園 栄養士

寺村 伸子

この度、和歌山県社会福祉協議会会長表彰をいただき誠にありがとうございます。

これもひとえに、常に現場の声に耳を傾け配慮して下さり的確な助言をくださる園長先生や副園長先生、連携を密に取り合い協力体制をとってくださる主幹保育教諭や保育教諭の先生方、安心安全な給食作りに共に従事して下さる調理の方々のおかげと只々感謝の思いでいっぱいです。

子どもたちの笑顔に元気をもらい、「今日の給食おいしかったよ!」「苦手な野菜も食べられたよ!」との声に日々励ましてもらい調理業務に従事できる環境にも感謝しております。

この感謝の気持ちを胸に和歌山つくし会の職員の一員として使命感のもと今後も精進してまいります。

「令和5年度 和歌山つくし会 永年勤続表彰」

和歌山乳児院 9名

勤続20年 江崎 美代子
 勤続15年 田中 孝子
 勤続10年 貝谷 悦子
 勤続5年 土井 正弥
 木原 里季
 古谷 有佳理

佐藤 喜代子
 白坂 由紀美
 岡田 亜紀

広瀬幼保園 4名

勤続25年 上野山 真生子
 勤続15年 家嶋 美和
 勤続10年 東條 真帆

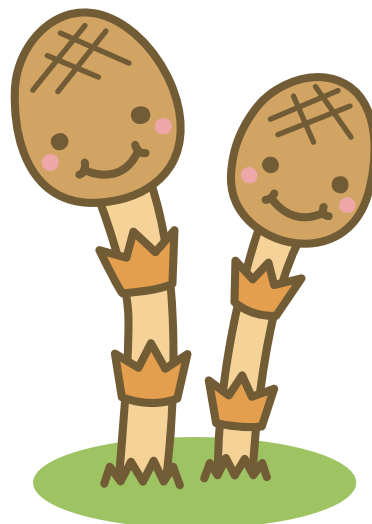
寺村 伸子

つくし幼保園 3名

勤続50年 岡 孝江
 勤続10年 嶋 京子
 勤続5年 岡本 美紗

つくしの里こども園 1名

勤続10年 中西 友美





つくし医療・福祉センター 34名

勤続25年	若井洋子	海瀬麻代
勤続20年	高石誠	尾上正人
	木村早織	和田万智子
勤続15年	矢尾美和	中谷誠
	中谷真理子	
勤続10年	谷口美季	岡崎大樹
	田中智恵	飯塚忠史
	阪上陽一	紀平省悟
	加藤美枝	
勤続5年	高田祐唯	野崎由美
	田邊美和	山本加珠恵
	土岐宗資	佐々木芳子
	林茉裕子	平野玲子
	奥田有三香	福元凡子
	梶谷大貴子	木下聡士
	山門都季子	北条ひかる
	山崎由美子	平山和枝
	山田智子	黒川真由美

つくしっ子レポート！

令和5年度 役・職員合同研修会 「和歌山つくし会創業70周年を迎えて」

令和5年12月7日、ホテルグランヴィア和歌山において、和歌山つくし会の理事、監事、評議員、施設長等による役・職員合同研修会が行われました。

コロナ禍のためにしばらく先送りになっていましたが、令和5年度は谷本理事長が和歌山つくし会創業70年の歩み（社会福祉法人設立55周年）と各施設設立当時の様子とその後、多機能化したことによる発展の様子、そして本来の事業の再確認を行いながら現在から未来への各施設の方向性に触れ、研修を行いました。



みんなであそぼう！

「つくしホールに あたらしいおともだちがやってきた！」

和歌山乳児院 バンビーニ広場・つくしホールに新しい遊具が届きました。
エアーサファリ、ボールプール、ベイビードラゴン、そしてリスコです。

エアーサファリは空気を送り込むとその中でトランポリン遊びができます。
安全で楽しい！こどもたちはもちろん、先生たちも夢中になりました！
ボールプールは夏でなくても大丈夫！プールの中にたくさんのボールを入れて、飛び込みま
しょう！

ベイビードラゴンとリスコは皆さんとおともだちになりたくてやって来たカラフルな怪獣たち。
見ているだけでも可愛いけれど、背中に乗ってあげると喜ぶですよ。

さあ、バンビーニ広場・つくしホールであそぼう！



リスコ



ベイビードラゴン



ボールプール

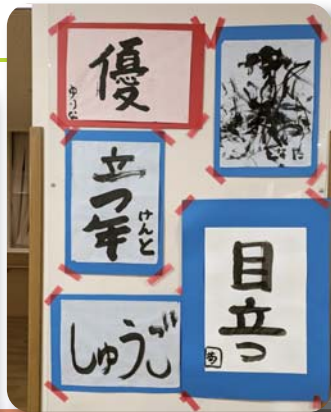
Facciamo amicizia!
おともだちになろう！



エアーサファリ



つくしギャラリー



編集後記 「変わらないために変わり続ける」

「変わらないために変わり続ける」というこの有名なフレーズは 名匠ルキノ・ビスコンティ監督によるイタリア統一がテーマの映画「山猫」の有名なセリフです。

登場人物のタンクレディ（配役アラン・ドロン！）が叔父のサリーナ公爵（バート・ランカスター！！）に「全てを今のままにとどめたいなら、変わらなくなるまで変わる必要があるのだ」と革命的な口調で語りかけます。

映画上映から既に60年が経ちますが、現在でもこのフレーズは「オリジナルなのか、何かの格言からの引用か？」「どの言語に、より近い表現があるか？」などと論争になることも。

令和5年度第42回 全国社会福祉法人経営者協議会において、磯 彰格全国会長からもこのフレーズが紹介されました。まさに現在の社会福祉法人のおかれているアンビバレントな状況、そして新しい方向性を示していると思います。

つくしジャーナル編集部

訃 報

奥 純子 先生

令和5年9月19日に奥純子先生が逝去されました。

奥先生は昭和60年につくし医療・福祉センターの前身である桃山療護園に医師として入職、平成6年から17年まで桃山療護園の園長として、平成21年から令和3年まで岩出療育園とつくし医療・福祉センター嘱託医師として勤務されました。

明るく、楽しいお人柄で、常に入所者さんや利用者さんたちのために精一杯働いて下さいました。

奥先生、長い間「和歌山つくし会」を見守り、導いて頂きまして本当にありがとうございました。

和歌山つくし会一同、心よりご冥福をお祈りいたします。